

大学が閉校するという驚きのニュースがありました。

現代は戦争やエゴイストな指導者によって厳しい状況になっています。しかし、旧約聖書「コヘレトの言葉」の中に「全てのことには時がある。生きる時があり、殺す時があり、植える時があり、抜く時があり、様々な時がある。」とあるように、私たちは変化を受け入れ、希望に向かって生きていく必要があります。変化は常にあるものであり、私たちの人生も変化を経験してきました。大学は共同体であり、学んだ経験を基に自分の生き方を豊かにし、他の人々と共に社会を築いていく場所です。世界はエゴイズムがはびこる時代ですが、海星で学んだ他者への奉仕の精神は世界を形作っています。大学が終わるのは悲しいことですが、私たち一人ひとりが愛と奉仕の心を持ち、周囲に生かすことで、教育の成果が現実化されるでしょう。

海星の記章が表すように、荒波の小舟である私たちは、星であるマリアのような強さを持った生き方を目指したいと考えています。マリアは困難に立ち向かいながらもしっかりと受け止め、進んでいく存在でした。今日はマリアのお祝いの日であり、そんな彼女の生き方を心に思い巡らしながら私たちも生きていきたいと思えます。人生には理解できない出来事が起きることもあります。大学の閉校も理解しがたいことです。しかし、そのことが私たちの人生でどのような意味を持つのかを考えながら生きることが大切です。マリアにならって生きていきましょう。

最後に、私は50年海星に関わってきましたが、できる限り皆さまと共に生きていきたいと思えます。よろしく申し上げます。